Little Creators フェスティバル ～ WA

報告書

2022 年 3 月

助成：EXPO'70 FUND（公財）関西・大阪21世紀協会

特別協賛：SUNTORY BEVERAGE & FOOD APAC

Little Creators

〒107-0062　東京都港区南青山 2-2-15-1403

tel: 03-6869-7282　email: contact@littlecreators.jp

リトル・クリエイターズの活動について

リトル・クリエイターズでは、恵まれない環境に育つこども、特に児童養護施設で暮らさざるを得ない子どもを対象に、自分を表現する機会、いろいろな環境におかれた人と出会い交流する機会を提供している。彼らが見えない障害を乗り越えて社会を生きていくための、夢や智慧や力を育む手助けをしたいとの思いからで、その手段としてアート（表現活動）を使っている。

新型コロナウイルスのパンデミックが勃発するまでは、児童養護施設でのアート・ワークショップを活動の軸とし、その延長として海外の子どもとの交流や海外への渡航、またワークショップで創造した作品の発表の場を提供してきた。中でも、2 年に 1 度開催していた『チャイルド・エイド・アジア』コンサート・シリーズは、児童養護施設の子ども、オーディションで選ばれた音楽的才能がある子ども、海外の子どもで構成され、言葉や年齢、環境の違いを乗り越えてひたすら初めて会った子ども同士が協力することが求められた。多くの出演者が次のコンサートでは裏方としてボランティアを買って出てくれたことが恒例になったことを考えると、コンサート制作の過程が子どもにとって意義のある、少なくとも思い出深いものだと言える。

パンデミック以降、コンサートもさることながら、日々の児童養護施設でのアート・ワークショップもままならなくなった。諦めることなく、2020 年 5 月には『チャイルド・エイド・インターナショナル 2020 バーチャル』を主催し、同年 12 月にはアジアの関係組織と『チャイルド・エイド・アジア　クリスマス編 Spirit of Giving』を開催した。いずれも大きな反響を得て、寄附金を集め、児童養護施設の IT 環境整備を支援することができたが、様々な理由で児童養護施設の子どもに共演、共作させることができなかった。そこで、児童養護施設の子どもを中心に考え、2021 年度を通して創り上げてきたのが『Little Creators フェスティバル～WA』である。ひきつづき物理的な活動が難しい時期ではあったが、盛りだくさんの楽しいフェスティバルになった。

Little Creators フェスティバル～WA

『Little Creators フェスティバル～WA』は、未来の担い手である子どもが、今はどんな環境におかれていても等しくチャンスがあり等しく社会にとって重要であるということを実感して欲しいという考えから、施設の子どもに IT 環境を提供するだけではなく、アナログの手元の作業を大切にしながらもデジタルの世界に少しずつでも馴染めるように何かできることはないかと考えて計画された。

タイトル：　Little Creators フェスティバル～WA

テーマ：　WA
WA という音を聞くと、輪、和、我などさまざまな感じが思い浮かぶ。
今、それぞれが個あるいは孤独を感じる生活を強いられる中、人とのつながりを WA をテーマに探っていく。

目的：　アート（表現活動）を使って国内外のいろいろな生活環境の子どもたち（18 歳以下）を交流させるとともに、その作品をオンライン文化祭として発信する。

実施内容：　児童養護施設、普通の家庭、海外など、多様な背景に育つ子どもを集めてオンライン文化祭を開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により物理的に一堂に会することが難しいため、Zoom 等のオンライン会議システムも活用して、日本と海外の参加者が交流する機会を創出した。各国の生活文化や子どもが作ったアート作品をきっかけに交流を促して相互理解を図るとともに、IT 技術を道具としての利用することの価値を実感させた。
美術、ダンス、音楽、食文化、インタビューの５つの柱にそって活動を展開し、作品や制作過程をホームページ上で発表。アクセス数はのべ 7,609 人で当初の目標 3,000 を大きく上回った。

参加者、ご協力者の皆さに心から感謝申し上げます。どうも有難うございます。

期間：　活動期間　2021 年５月―1 月
配信期間　2022 年２月 11 日―３月 21 日

配信元：　https://online.childaidasia.com/

参加者：　　７カ国（シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、スリランカ、メキシコ、日本）から 123 人

活動参加費・視聴料：　無料

協力：　　児童養護施設　聖園子供の家
児童養護施設　東京都石神井学園
Little Arts Academy （シンガポール）
CHIJ Kellock Primary School（シンガポール）
児童養護施設　Barnabas Home（マレーシア）
在京シンガポール共和国大使館
在京リベリア共和国大使館

後援：　　The RICE Co., Ltd. （シンガポール）
NPO The Smiles　（マレーシア）
Yayasan Asa Sehati Indonesia　（インドネシア）

海外プロデューサー：　Guru Simmar（シンガポール）
Shazna Sim（シンガポール）
Ralph Lim（マレーシア）
Ferdinand Marsa（インドネシア）
May Parichat（タイ）
Wishwani Amarakoon（スリランカ）

Web 制作：　藤田拓人　村原郁夫（RITA 合同会社）

助成：　　日本万博博覧会記念基金

協賛：　　Suntory Beverage & Food APAC（シンガポール）

主催：　　NPO リトル・クリエイターズ

Little Creators フェスティバル　美術

■聖園作品集

リトル・クリエイターズが聖園子供の家で小学生を対象に毎月開催している創作ワークショップ。2021 年は新型コロナウイルス感染拡大のため開催できない月が多かったが、それでもたくさんの作品がうまれた。前期は、シンガポールの Little Arts Academy の子どもと３回シリーズで「シンガポール・日本　デジタル・アート交流会」（助成：Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore）を開催。描いた絵をデジタル化し、バーチャル展覧会の形で鑑賞した。後期のプログラムは、ダンボールで作る的当てゲーム、びっくりグリーティングカード、紙皿製スノードーム。デジタルとアナログの世界を体験した。

■絵巻物

同じアジアに暮らしていても、今や私たちを隔てるものは海だけではない。新型コロナウイルス感染拡大で、海外の子どもとの交流が思うように行えない中、それでも温もりを感じるアナログで繋がっていたいと企画されたのが、この絵巻物のプロジェクト。シンガポール、マレーシア、日本の子どもが、海のような水色の線に沿って、各国のランドマークや衣装、食文化、生活習慣の様子など、さまざまなシーンを 10m の巻物に紹介された。映像で紹介された絵巻物は、114 回の閲覧を得た。

フェスティバル中には、３カ国の子どもがオンラインで交流した。参加した全員が名前と好きな色を英語で紹介した後、完成作品を一緒に鑑賞して各国の絵を紹介しあった。

参加者：

＜シンガポール＞Riyan Satria Bin Mohamad Rizal, Toh Li Ting, Ang Jing Zhi Cherry, Putri Arissa Binte Mohamed Khairul Anwar, Joshua Wang Xi Yue, Angela Tuang, Khoo Kang Zhe Eugene, Art Benito Wan, Akil Ashadeen

Bin Mohammad Rahiddeer, Thum Tien Yu Ryo（一般児童、恵まれない環境の児童対象のアートセンター　Little Arts Academy）
＜マレーシア＞Abed, Vekines, Dineswar, Darvin, Ezecheil, Shadrach, Nivitha, Joel, Kirtina　（児童養護施設　Barnabas Home）
＜日本＞たえ、めい、ゆずか、めぐみ、かれん、ちかこ、さくら、すず、ななみ、かれん、しょうき、まお（児童養護施設　聖園子供の家）

■メイン・ビジュアル（制作：Yuna　アート・ディレクション：本永惠子）
「私にとってアートは、自己表現と生きているということ、そのもの。」
この報告書の表紙にもあるLittle Creatorsフェスティバルのメイン・ビジュアルは、中学校１年生の時にリトル・クリエイターズのプログラムでシンガポールに短期滞在した経験があるYunaが制作した。YunaはシンガポールのLittle Arts Academyで開催された透明傘に絵を描くコンペで優勝。その頃から美術に興味を持ち、成人した今も自分なりに制作を続けている。
「COVID-19のパンデミックが起こって、それが始まる以前の〝平和〟とは違ったヘイワが世界中で求められ始めた気がする。何百年、何千年と生きる木の幹の力強さ、葉と風がぶつかり合ってサワサワと揺れる融合した華麗さ。人同士の繋がりが減っている世の中で、WAを再認識しようという思いで」描いた。

Little Creators フェスティバル　ダンス

インドネシアの子どもが作曲・演奏した曲『Feel the Beat』に合わせ、シンガポール、マレーシア、日本の子どもがそれぞれの振り付けで踊り共演した４カ国合作ダンス。楽曲は７月に提供されたが、各国の新型コロナウイルス感染拡大状況が異なり、３カ国が同時期に練習をすることが叶わず、制作過程での交流は断念した。代わりに以下３点を参加者にアンケートとして質問し、その回答をフェスティバル内で発表した。

1. ダンスをしているとき、どんな気持ちか。
2. 今回のダンスで頑張ったところ、工夫したところは何か。
3. 見る人にどんなことを伝えたいか。

ダンス映像はミックスしたものを発表するとともに、各国で作ったダンス映像も見ることができるようにし、フェスティバル期間中に合計 500 回の視聴回数を得た。

フェスティバル中には、ダンスを踊った３カ国の子どもがオンライン交流会を行った。参加した全員が名前と何故ダンスをするのが好きなのか理由を述べた後、以下のような項目でお互いのダンスを紹介しあった。

1. ダンス収録までに何日、何時間の練習をしたか。新型コロナウイルスの影響はあったか。
2. マレーシアチームは伝統衣装を纏って伝統的なダンスのようだが、その説明をしてほしい。
3. 日本チームは撮影場所がどこで、いつもどんな生活をしているのかを教えてほしい。
4. シンガポールチームはダンスの息がとてもあっているが、今までどのくらい一緒に踊っているのか。
5. 他の国のチームのダンスをどう思ったか。
6. もしこんなチャンスがまたあったら、どんなことにチャレンジしたいか。

６の質問に対しては、次回は物理的に会って、お互いの国のダンスを学んだ上で一緒にダンスを作りたいという声があがった。

参加者：
＜インドネシア＞Ricardo Wayong 作曲、Alicia Callista, Fanuel Graciello Sidharta, Kalonica Nicx 演奏
＜シンガポール＞Subastian Tan 振付、Bazil Khalaf Bin Basir, Marsya Nashmia Bte Muhd Sateria, Maya Nabilah Binte Muhammad Sateria, Obi Bonarr Chukwuma Jnr, Vaishnavi （Divers 10）
＜マレーシア＞Sandhya, Amiesha, Sheela Raghavan 振付、Sandhya, Amiesha, Shavena, Tinithra, Swetha, Gopika, Pooveneswary, Manisha, Ashrita （Mahavidya Dance Theatre）
＜日本＞新倉未奈子、齋藤朝葉振付　（東京都石神井学園ダンス部）

Little Creators フェスティバル　音楽

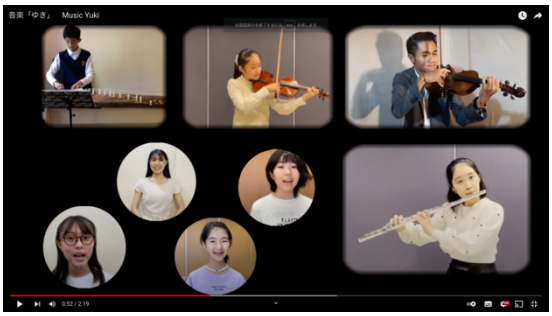
リトル・クリエイターズ主催の『チャイルド・エイド・アジア』にかつて出演した北村明日人を音楽監督に迎え、日本でオーディションを勝ち抜いた子ども、海外の関係組織プロデューサーが選抜した子どもが「雪」「カノン」「風（オリジナル曲）」に挑戦。それぞれが録音、録画したものを編集し映像作品として発表した。合計視聴回数は 536 回だった。また、リトル・クリエイターズ設立 10 周年記念として 2019 年に録音された『輝く明日へ』（『チャイルド・エイド・アジア』テーマ曲も配信した。
新型コロナウイルス感染拡大で、国によって録音できる時期が異なってしまったため制作過程での交流会は諦めざるを得なかった。代わりに以下のようなアンケートに回答を求め、その回答をフェスティバル内で発表した。

1. 今回の演奏で頑張ったところ、工夫したところは何か。
2. 観る人にどんなことを伝えたいか。
3. 演奏をしているとき、どんな気持ちか。

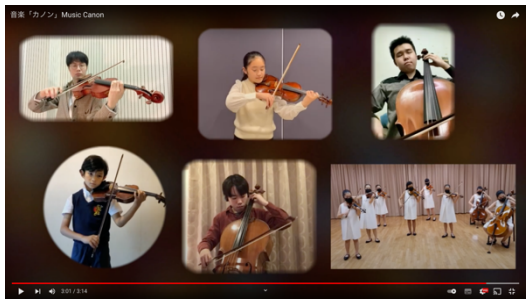
フェスティバル中にはオンラインで交流会を行い、それぞれが名前と好きな作曲家を紹介した後、３つの映像作品を見ながらそれぞれの録音時の苦労や喜びを確かめ合った。共通した意見に、「お互いを感じながら演奏できないことがどれほど難しいかわかった」、「どんな作品に仕上がるのか編集が楽しみだったし、出来上がった作品を見て感激した」などがあった。将来また同じような機会が与えられたら、「もっと有名な曲、ポップスやミュージカル曲をやってみたい」、「他の国の伝統音楽に挑戦したい」という声が上がった。

■雪

編曲：　北村明日人
歌：　＜スリランカ＞Mishane Nimneth
　　＜日本＞大野夢音、大嶽かずき、鋪野桃香、小池波、根岸実央
演奏：　＜インドネシア＞Fakhri Pratama
　　＜日本＞赤司結子、赤司琴子、ドゥアラ・サイラス

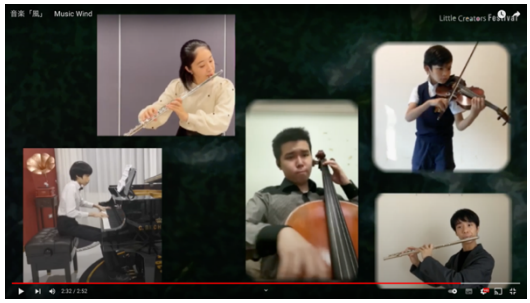


■カノン



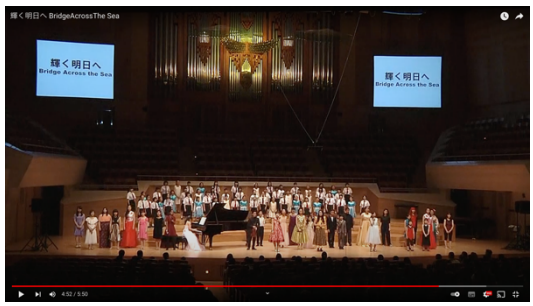
作曲：　ヨハン・パッヘルベル
編曲：北村明日人
演奏：　＜シンガポール＞CHIJ Kellock String Ensemble (Abigail Lau, Kishea Chua, Maya Go, Larissa Lim, Janelle Tan, Janaelia Shim, Tara Neo Lai, Marissa Wong)
＜マレーシア＞Goh Wen Chih　＜インドネシア＞Ariel Judarta
＜日本＞ドゥアラ・アディ、赤司琴子、山本栞路

■風



「風」は、フェスティバル開催にあたり８小節あるいは 16 小節のメロディーを公募し、その中から選ばれた４つの旋律をもとに北村明日人が編曲したオリジナル作品。
メロディー創作：北山櫻子、高橋陽詩、藤田ひとみ、美野羽希
編曲：　北村明日人
演奏：　＜マレーシア＞Goh Wen Chih
＜タイ＞Yuqiao Chen（中国出身）
＜日本＞赤司結子、ドゥアラ・アディ、鈴木義了
Yuqiao Chih がこの映像を中国の友人や親戚に見てほしいと考えたが、ヴァーチャルの上でも国境の壁は高く、リトル・クリエイターズのホームページ、日本の YouTube では中国で視聴が叶わない。そこで、Yuqiao Chih の母堂が SNS にあげたところ、中国国内で 1,433 回の視聴を得た。

■輝く明日へ～チャイルド・エイド・アジア　テーマ曲（2019 年録音）



作曲：　八幡茂　　作詞：宮本泉、Brian Magrudar
歌：　＜シンガポール＞CHIJ Kellock Primary School Choir
＜日本＞チャイルド・エイド・アジア OG・OB

Little Creators フェスティバル　食文化

各国の子どもが「自慢したい料理」を紹介する企画。当初はシンガポールやマレーシア、日本の児童養護施設でクッキング・ワークショップをすることや、料理を実際に作ってオンライン交流会を催すことを企画していた。新型コロナウイルス感染拡大によって子どもを集めて料理をすることが安全とは言えないことや、拡大のタイミングが国によって違っていたことで、当初の企画は断念せざるを得なかった。変わって、リトル・クリエイターズの周辺の若者から「自慢したい料理」を寄せてもらい、フェスティバル期間中も応募を続けた。
メキシコ、マレーシア、日本から６人８つの料理がエントリーした。
エントリーにあたっては、料理の名前、材料、他の国の子どもに自慢したい点や工夫した点を聞き取り、その回答をフェスティバル内で発表した。

参加者：
＜マレーシア＞Siew Fun
＜インドネシア＞Alicia Callista
＜メキシコ＞Susana Jano
＜日本＞Yuta, Emiri, Natsumi

Little Creators フェスティバル　インタビュー

児童養護施設の子どもが視野を広げる助けになるようにと、駐日大使館を訪ねるプログラムを企画。聖園子供の家の子どもは駐日シンガポール共和国大使館を、東京都石神井学園の子どもは駐日リベリア共和国大使館を訪ねた。訪問の様子をフェスティバルで短い映像にして発表したところ、合計 131 回の視聴回数を得た。

■聖園子供の家

駐日シンガポール共和国大使館のピーター・タン・ハイ・チュア大使閣下はニコラス・クア書記官、原澤麻子氏とともに、聖園子供の家の小学生を中心とする 21 人をクリスマス・イブに招待くださった。クア書記官の日本語でのプレゼンテーションの後、日本語で 4 人の代表が大使閣下に質問をし、大使閣下も日本語で回答くださった。大使閣下が日本語を一生懸命勉強したことや、日本に戻って来て両国のために働けることが嬉しいとお話しくださったことを子どもも真剣に聞いていた。お礼にと子どもが作ったクリスマスのオーナメントをお渡しし、それ以上に大きなお土産を頂戴して、また皆さんに名刺をおねだりして、帰路についた。

「リトル・クリエイターズさんより招待をいただき、子ども達 21 名とシンガポール共和国大使館へ訪問させて頂きました。大使館という場所に招待して頂いたことで、シンガポールという国を肌で感じ、大使館でのお仕事をよく学べたと思います。当日子ども達は緊張した様子でしたが、大使に暖かく迎えていただき、笑顔で話を聞くことが出来ました。職員の方々も日本語で分かりやすく、日本アニメの話題や、大使館の方々の名刺、お土産も頂き、子どもたちは喜んでいました。シンガポールの食事や、子ども達の生活などの質問もでき、楽しい勉強の時間となりました。国を繋ぐ外交のお仕事を目の当たりにして将来の夢と掲げた子もいます。貴重な体験をありがとうございました。」

聖園子供の家　野際良介

■東京都石神井学園

駐日リベリア共和国と日本が外交樹立 50 周年を迎えたため、JICA 地球ひろばで特別展示会を行なっていた。東京都石神井学園の中学 3 年生の 2 人は、この展示会をまず見学して、大使館を訪れた。大使館では、ブラモー・ネルソン大使閣下、ザコレ・コンゴ公使、ジョセフィーヌ・アラで書記官、ターシャ・ジャクソン書記官が迎えてくださった。2 人

は、練習してきた英語を駆使してリベリアについて６つの質問をし、大使閣下にご回答いただいた。全く知らなかった国が、大使館を出るときにはとても身近に感じられた様子で、お土産やリベリアに関する資料をたくさんいただきながら、リベリアの親善大使になると張り切っていた。

「私は今日の一日で、すごく勉強になったことがたくさんありました。最初は聞いたことがない国だったので、「リベリア？」と疑問に思うことがありました。でも一日で深くリベリア共和国のことを知れてとてもうれしかったです。インターネットとかも日本よりも発達していて、想像していたよりもはるかにすごい国なんだと思いました。写真など映像とかも見てみてすごい自然がいっぱいで今すぐにでも行ってみたい国だなと思いました。説明とかを読めば読むほどおもしろいことやすごく勉強になることばかりで、どんどんリベリアのことを知りたくて今日も帰ったあとずっとパンフレットとかも読んでいました。地球儀など色々な物をくださってありがとうございました。本当にすばらしい一日でした。」

東京都石神井学園　ラム

「私は、初めてリベリア大使館に行き、たくさんの事を学びました。リベリアは、あまり聞いたことがなく、どんな所かも知りませんでした。しかし、初めて行ってみて、リベリアがどういう所かを知ることができました。
リベリアは、赤道に近く平均気温は 27℃で少し蒸し暑い気候という事を知りました。平均気温が 27℃ということは、常に夏より少し涼しい気温なので、過ごしやすいのかなと思いました。
しかし、雨季と乾季の二つがあり洗濯物を干すとき、雨などの時は、日本のように乾燥機などがないため、不便な所も多いと思いました。 そんな中でも、一番大変だなと思った事は、二つあります。
一つ目は、一人あたりの水分の量がとても少ないことです。日本のように、いつ、どこでもすぐに水を使えるわけではなく、リベリアでは、水がとても少ないため、一人あたりの水の量が大さじ２杯分しかないことです。この少量の水を、大切に使っているのは、とてもすごいことだと思いました。私も、このことを学び、水を節約し大切に使おうと思いました。
二つ目は、マラリアによる感染問題です。リベリアでは、感染症であるエボラウイルス病の流行は抑えることができたものの、慢性的にみられるマラリアが大きな問題となっています。
マラリア原虫という寄生虫をもつ蚊に刺されることによって、人に感染し、幼いこどもを中心に、リベリアでも、毎年約１２６万人がマラリアにかかっていることです。 今、世界

でも新型コロナウイルスが感染しています。そんな中でも、リベリアの人たちは、コロナとマラリアと戦っています。そんな人たちに、たくさんの笑顔と元気を届けたいと思いました。
今回、リベリア大使館に行って、色々な事を学ぶことができました。リベリアの方とも話せて、英語で質問することが、できました。今回学んだ事を、今後の生活に少しでも生かしていきたいです。」

東京都石神井学園　ともみ

「「リベリアってどこ？」リベリア大使館の訪問が決まったことを伝えた時に、子どもたちから返ってきた言葉です。しかし、当日大使館の訪問の帰途の子どもたちからは「リベリアが好きになった。」「いつかリベリアに行ってみたい。」との言葉が聞かれました。
今回の大使館訪問を受け、子どもたちが異文化に触れ、異文化の事を好きになってくれたことを、私自身とてもうれしく思っているところです。
今回はこのような貴重な機会を作ってくださり、誠にありがとうございました。」

東京都石神井学園　スタッフ　追川将太

ファンド・レイジング

新型コロナウイルスの感染拡大による教育格差の広がりは至る所で見受けられ、IT 環境を有するかそうでないかが、子供の教育を受ける権利を直接的に脅かしている。今回は特に、児童養護施設を退所していく子どものために『リトル・クリエイターズ・フェスティバル』の開催を通じで、視聴者に寄付を呼びかけた。退所する子どもは、18 歳になり成人するために施設を離れる子ども、親元に帰る子ども、そのほか里親などに引き取られて施設を出る子どもが対象となる。多くの場合、IT 環境に限らず引き続き何らかの支援が必要になる。

集まった寄附金は合計で 154,483 円。７台のタブレットを購入して、今年度聖園子供の家から退職した７人に届けた。不足分は自己資金（リトル・クリエイターズの活動にいただいた寄附）から充当した。

寄附金をお寄せくださった皆様（順不同）

堤尚広様　宮脇潤治様　山崎淳様　石賀聖子様
有山聡様　富田裕美様　小山内香苗様　鈴木優子様
Jacki Elgar 様　ほか

（収支報告）

寄附金総額	154,483 円
自己資金	71,127 円
LAVIE Tab E (PC-TAB10F01)　x ７台 ワイヤレスイヤフォン、充電器付き	225,610 円

この場をかりて、ご寄附くださった皆様に心より御礼申し上げます。有難うございます。